

東南アジア古典文化論：映画で見るマハーバーラタ

作品

- ・ 『マハーバーラタ』(The Mahabharata)、監督ピーター・ブルック (Peter Brook)、英語、170分、1989年。使用したDVDはImage Entertainment ID4862MPPDVD。
- ・ 演出家ピーター・ブルックと脚本家ジャン・クロード・カリエール (Jean-Claude Carrière) が脚色した9時間の舞台劇版『マハーバーラタ』をもとにテレビ放映用に制作した318分の作品を、さらに劇場公開用に170分に短縮したもの。
- ・ ヒンドゥー教の叙事詩としてではなく全人類の物語として語られており、配役もさまざまな民族から構成されている。

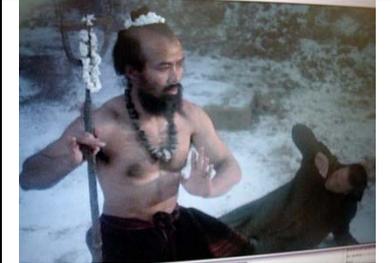
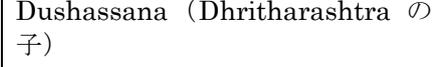
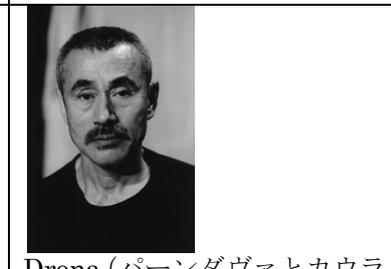
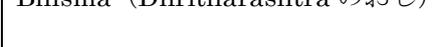
配役（俳優の名前順）

Dushassana, Urs Bihler	Arjuna, Vittorio Mezzogiorno
Dhritharashtra, Ryszard Cieslak	Ganesha/Krishna, Bruce Myers
Duryodhana, Georges Corraface	Drona, Yoshi Oida
Bhima, Mamadou Dioume	Gandhari, Helene Patarot
Kunti, Miriam Goldschmidt	Draupadi, Mallika Sarabhai
Karna, Jeffrey Kissoon	Yudhishtira, Andrzej Seweryn
Bhisma, Sotigui Kouyate	Pandu/Shiva/Salva, Tapa Sudana
Shakuni, Tuncel Kurtiz	Sahadeva, Mahmoud Tabrizi-Zadeh
Vyasa, Robert Langdon Lloyd	

参考文献

- ・ 映画版『マハーバーラタ』
Internet Movie Database: The Mahabharata
<http://www.imdb.com/title/tt0097810/>
THE MAHABHARATA: a film by Peter Brook
<http://www.miracosta.cc.ca.us/home/gfloren/mahabfilm.htm>
THE MAHABHARATA
<http://www.miracosta.cc.ca.us/home/gfloren/mahabharata.htm>
THE MAHABHARATA: A Family Chart
http://www.miracosta.cc.ca.us/home/gfloren/mahabharata_chart.htm
- ・ 舞台劇版『マハーバーラタ』の脚本の日本語訳
ジャン・クロード カリエール (著), 笈田 勝弘 (翻訳), 木下 長宏 (翻訳). 1987. 『マハーバーラタ』白水社.
- ・ ジャワ語版マハーバーラタのあらすじ
<http://kotatujo.cool.ne.jp/hyo/sakuhin/mahabarata/menu.htm>

主な登場人物

		
<p>Pandu (パーンダヴァ兄弟の父) (Shiva, Salva と 3 役)</p>	<p>Kunti (Pandu の妻) Madri (Pandu の妻)</p>	<p>Dhritharashtra (カウラヴァ兄弟の父)</p>
		
<p>Karna (Kunti の子)</p>	<p>Vyasa, Ganesha, 少年</p>	<p>Gandhari (Dhritharashtra の妻)</p>
		
<p>Yudhishtira (Pandu の子)</p>	<p>Bhima (Pandu の子)</p>	<p>Duryodhana (Dhritharashtra の子)</p>
<p>Shakuni (Gandhari の弟)</p>		
<p>Arjuna (Pandu の子) Nakula, Sahadeva (Madri の双子)</p>	<p>Draupadi (パーンダヴァ兄弟の妻)</p>	
<p>Dushassana (Dhritharashtra の子)</p>		
<p>Krishna (Kunti のいとこ)</p>	<p>Drona (パーンダヴァとカウラヴァの師匠)</p>	
<p>Bhisma (Dhritharashtra のおじ)</p>		

レスポンスシート（映画『マハーバーラタ』）

氏名 _____ 学生番号 _____

1. 『マハーバーラタ』は詩人ヴィヤーサによって語られた作品とされています。この映画では、作品が語られた物語りであることが、どのような方法によって強調されているでしょうか？
2. 作品の中では、いくつもの呪いまたは予言とその成就が描かれています。呪いや預言は物語のなかでどのような役割を果たしているでしょうか？
3. アルジュナとドゥルヨーダナがクリシュナに援助を求めに来たとき、クリシュナは二つの選択肢を示して二人に選ばせます。二人の選択は、それぞれの指導者としてのどのような資質を表現しているでしょうか？
4. カルナは、なぜ母クンティに自分の素性をパーンダヴァに明かさないう頼んだのでしょうか？
5. この作品において、善と悪はどのようなものとして描かれているでしょうか？
6. この作品を見た感想を自由に書いてください。